

東京海洋大学 江戸前ESD サイエンス・カフェ

# 江戸前の海と 魚を知ろう



江戸前名百景

日時 2008年8月22日(金)13時~17時  
会場 東京海洋大学 品川キャンパス  
附属図書館 1階 ラウンジ  
入場無料~どなたもお気軽にお越しください~

【江戸前についてのお話 提供】

鈴木 晴美 さん(江戸前6代目漁師)

河野 博 教授(東京海洋大学 魚類学研究室)

工藤 貴史 准教授(東京海洋大学 沿岸域利用論研究室)  
ほか

お問い合わせは

江戸前ESDサイエンス・カフェ実行委員会へどうぞ

(電話 03-5463-0574; 電子メール kawabe@kaiyodai.ac.jp)

本活動は、JST平成20年度地域科学技術理解増進活動推進事業 地域活動支援の助成を受けています。

## 「江戸前の海」へのお誘い

白砂青松の海岸の地先に海苔養殖の竹ヒビが所狭しと並び、沖ではサワラやダツ、さらにはサメ漁業が盛んで、時にはクジラまでがやってくる。こうした光景がほんの百数十年前まで繰り広げられていたのが、ここ品川です。

この夏、品川にある東京海洋大学では、「江戸前の海と魚を知ろう」というサイエンス・カフェを開催します。主な内容は、1. 図書館が所蔵する東京湾に関する書籍や文献を紹介し、2. 今の江戸前の姿を、漁業や食の視点から、また、現在、本学で行われている研究を通して紹介することです。

生の江戸前に触れることで、少しでも東京湾に興味をお持ちいただければ幸いです。

みなさまのお越しをお待ちしております。

江戸前ESDサイエンス・カフェ実行委員会



お話くださるかたがたは：

**鈴木 晴美** さん（江戸前漁師）

江戸時代から続く江戸前漁師の6代目。港区金杉橋浦を拠点に、お父さん、息子さんの3代で、冬はアナゴ漁、夏はスズキ漁を営む。漁業者として見た江戸前の海や魚の移り変わりについて語っていただきます。

**河野 博**（こうの ひろし）（東京海洋大学 魚類学研究室 教授）

愛媛県海辺生まれ。子供の頃から海づけ・魚づけの日々を送っていたため、魚の研究をするとは魚の研究者になるまで考えたこともなかった。イタリアや東南アジアの魚と親交を深めた後、東京湾の魚と出会う。魚とはいっても専門は仔稚魚（魚の子供）の形態・生態学で、骨の形成過程の観察も好き。最近では東京湾の仔稚魚と戯れている。東京湾の持続可能な利用のありかたを探る大学—地域協働教育事業、江戸前ESDプロジェクト代表。

**工藤 貴史**（くどう たかふみ）（東京海洋大学 沿岸域利用論研究室 准教授）

1970年東京生まれ。釣り好きが嵩じて東京水産大学へ。入学後、関心は「魚」から「人と魚とのかかわり」へ。「人と魚と水の関係学」専攻。東京湾における人と魚と水の関係は、この100年間の間に大きく変わってきました。今回は、東京湾における釣りの移り変わりから、人と魚と水の関係についてお話ししたいと思います。

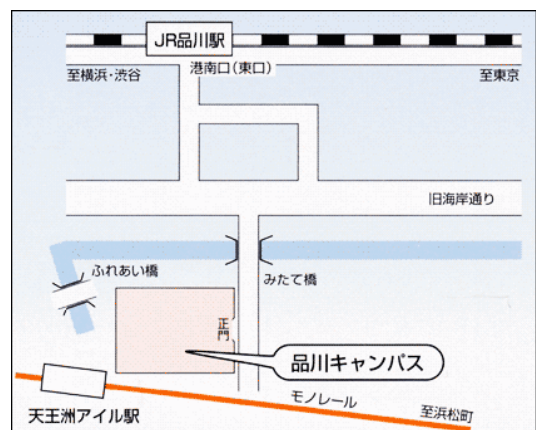
### ■会場ご案内 ■

東京海洋大学 品川キャンパス 附属図書館  
〒108-8477 東京都港区港南4-5-7

品川キャンパスまでは

- JR線・京浜急行線 品川駅港南口(東口)から徒歩約10分
- 東京モノレール天王洲アイル駅から「ふれあい橋」を渡り正門まで約15分
- りんかい線天王洲アイル駅から「ふれあい橋」を渡り正門まで約20分

☆図書館は正門から約100m左手にあります。  
正門の守衛所でお尋ねください。



江戸前ESDとは、東京湾の持続的利用のしくみづくりを考える東京海洋大学-地域協働教育事業です。